

## ◆ やまがた緑環境税に関するアンケート調査結果（市町村）

### <調査の概要>

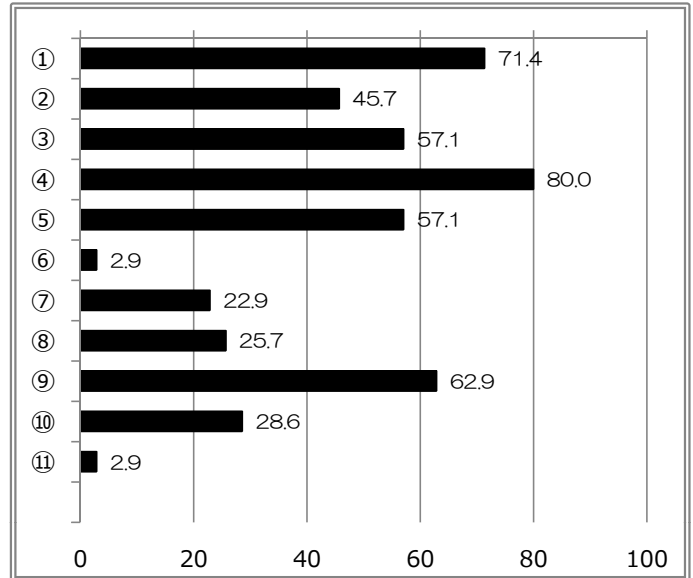
- 1 対象：みどり環境交付金事業実施市町村
- 2 期間：平成27年10月～11月
- 3 回答：35市町村

### <アンケート内容>

問1 交付金事業の実施により、どのような成果があったとお考えですか（複数回答）

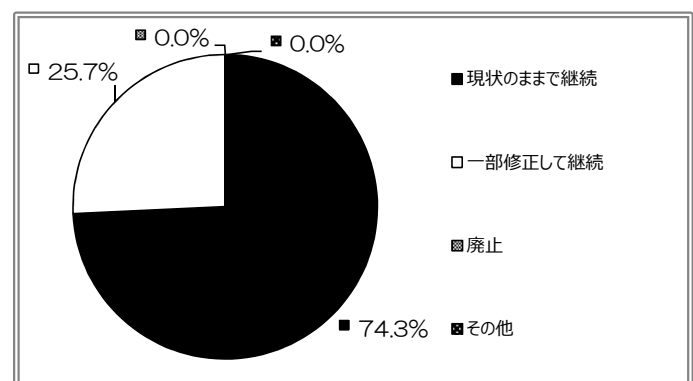
（単位：% 回答した35市町村に対する回答の割合）

事業の成果	回答数
① 森林に関する地域活動の活性化	71.4
② 森づくり活動による地域間交流の拡大	45.7
③ 森林・林業に関心がある住民の増加	57.1
④ 子どもたちへの森林環境教育の充実化	80.0
⑤ 森林整備による地域環境の改善	57.1
⑥ 林業後継者の育成	2.9
⑦ 野生動物との共存	22.9
⑧ 希少野生動植物の保全	25.7
⑨ 県産材の利活用、普及啓発	62.9
⑩ 木質バイオマスの利活用	28.6
⑪ その他	2.9
計	457.2



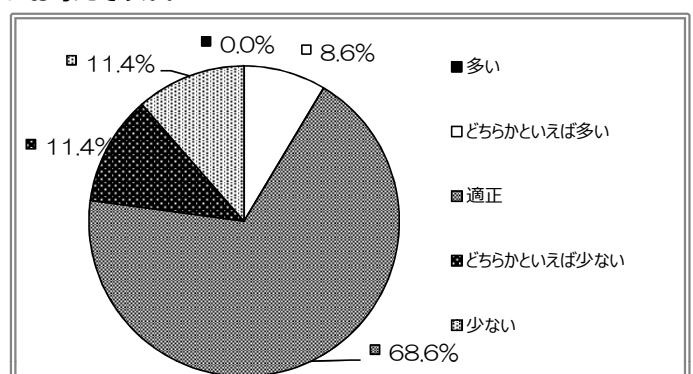
問2 交付金事業の今後（平成29年度以降）の展開について、どのようにお考えですか。

今後の展開	回答数
① 現状のままで継続	26
② 一部修正して継続	9
③ 廃止	0
④ その他	0
計	35



問4 交付金事業の現在の貴市町村の基本配分額についてどのようにお考えですか。

基本配分額	回答数
① 多い	0
② どちらかといえば多い	3
③ 適正	24
④ どちらかといえば少ない	4
⑤ 少ない	4
計	35



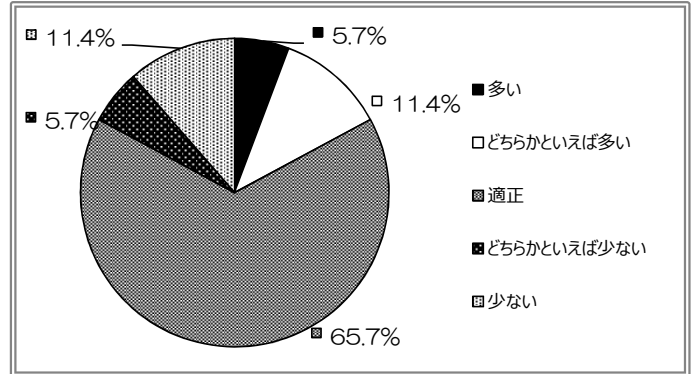
## ◆ やまがた緑環境税に関するアンケート調査結果（市町村）

### <調査の概要>

- 1 対 象：みどり環境交付金事業実施市町村
- 2 期 間：平成27年10月～11月
- 3 回 答：35市町村

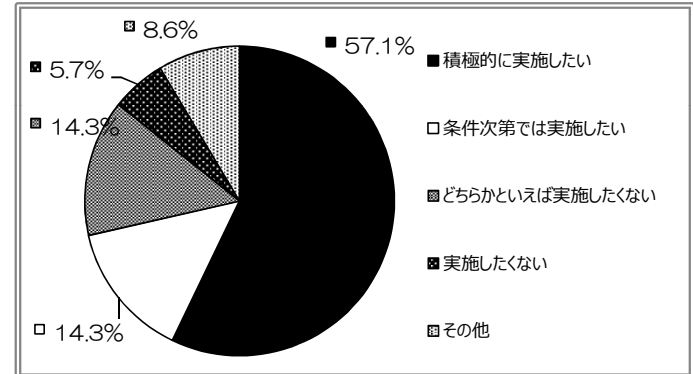
問5 特別配分枠の割合についてどのようにお考えですか。

特別配分枠の割合	回答数
① 多い	2
② どちらかといえば多い	4
③ 適正	23
④ どちらかといえば少ない	2
⑤ 少ない	4
計	35



問8 公募事業実施団体と協働で貴市町村の森づくり活動を実施することについて、どのようにお考えですか。

公募事業実施団体との協働	回答数
① 積極的に実施したい	20
② 条件次第では実施したい	5
③ どちらかといえば実施したくない	5
④ 実施したくない	2
⑤ その他	3
計	35



※ 問3、問6、問7、問9、問10は自由記述

## ◆ やまがた緑環境税に関するアンケート調査結果（公募団体）

### <調査の概要>

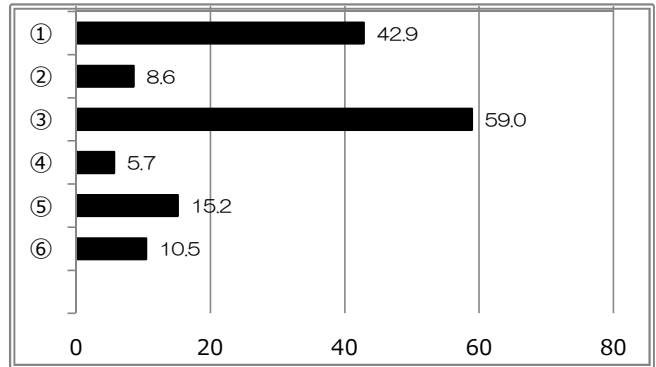
- 1 対 象：平成27年度県民みんなで支える森・みどり環境公募事業実施団体
- 2 期 間：平成27年10月～11月
- 3 回 答：105団体

### <アンケート内容>

問1 貴団体は公募事業を何により知りましたか（複数回答）

知った経緯	回答数
① 県のHPや広報誌・パンフレット	42.9
② 市町村のHPや広報誌・パンフレット	8.6
③ 県や市町村の担当課	59.0
④ 新聞・マスコミ	5.7
⑤ 他の活動団体から	15.2
⑥ その他	10.5

（単位：% 回答団体105団体に対する回答の割合）



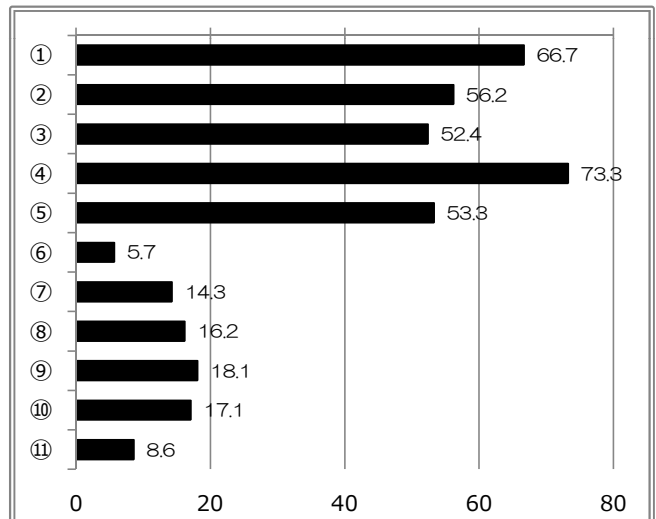
【その他】

- ・ 森づくり報告会・朝日生態系保全センター・森林インストラクター・直接合庁に行って相談・県職員の人・前区長から・住民から・社長が知っていた
- ・ H19導入時活用・運用説明会にて

問2 公募事業の実施により、どのような成果があったとお考えですか（複数回答）

事業の成果	回答数
① 森林に関する地域活動の活性化	66.7
② 森づくり活動による地域間交流の拡大	56.2
③ 森林・林業に関心がある住民の増加	52.4
④ 子どもたちへの森林環境教育の充実化	73.3
⑤ 森林整備による地域環境の改善	53.3
⑥ 林業後継者の育成	5.7
⑦ 野生動物との共存	14.3
⑧ 希少野生動植物の保全	16.2
⑨ 県産材の利活用、普及啓発	18.1
⑩ 木質バイオマスの利活用	17.1
⑪ その他	8.6

（単位：% 回答団体105団体に対する回答の割合）

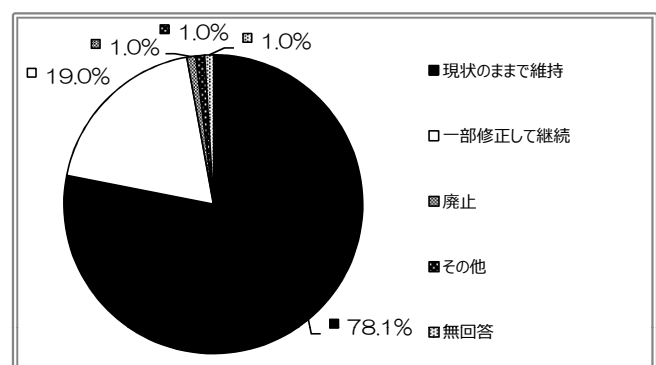


【その他】

- ・ 環境破壊につながる行為の自粛(特に高山などで)・社員、一般参加者の森林等に関する知識・技術の向上・森林活動による心身のリフレッシュ体験・山形県のPRになり、森林王国山形、森と共生する県民性がブランドになった。・環境保全に関する意識付け、行動のきっかけ・社員及び社外参加者の交流、森林への意識向上・森林を介して、その地域自体への関心を高めた。実際に訪れる契機をつくる。・これまで使用頻度が高くなかった街中や里山に設置された施設や仕掛けの使用頻度が上がると共に注目された。

問3 公募事業の今後（平成29年度以降）の展開について、どのようにお考えですか。

今後の展開	回答数
① 現状のままで維持	82
② 一部修正して継続	20
③ 廃止	1
④ その他	1
⑤ 無回答	1
計	105



## ◆ やまがた緑環境税に関するアンケート調査結果（公募団体）

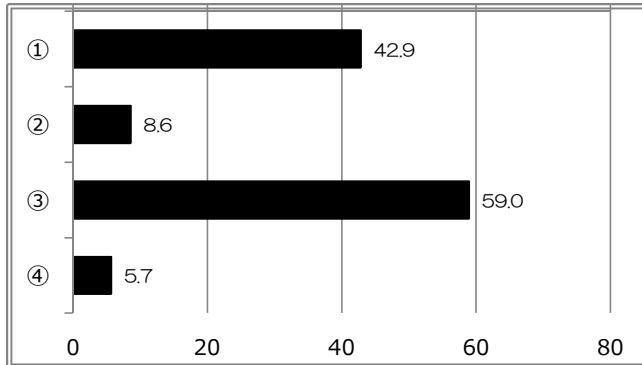
### <調査の概要>

- 1 対 象：平成27年度県民みんなで支える森・みどり環境公募事業実施団体
- 2 期 間：平成27年10月～11月
- 3 回 答：105団体

問5 貴団体の活動経費に関する公募事業以外の財源についてお尋ねします（複数回答）

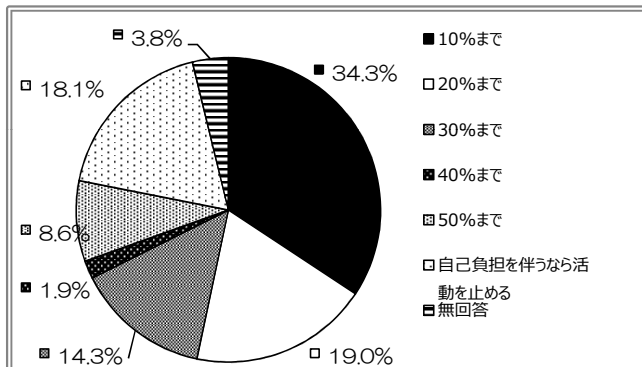
（単位：% 回答団体105団体に対する回答の割合）

公募事業以外の財源	回答数
① 会員から定期的に会費を徴収している	42.9
② 活動毎に参加者から参加費を徴収している	8.6
③ その他の財源	59.0
④ 公募事業以外に財源は無い	5.7



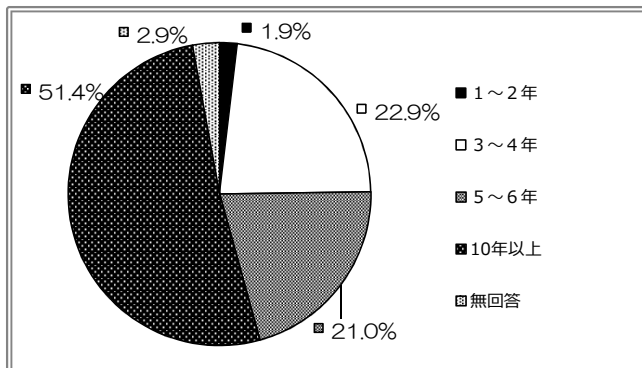
問6 どれくらいまでの自己負担が可能と思われますか。

自己負担可能な割合	回答数
① 10%まで	36
② 20%まで	20
③ 30%まで	15
④ 40%まで	2
⑤ 50%まで	9
⑥ 自己負担を伴うなら活動を止める	19
⑦ 無回答	4
計	105



問7 公募事業への連続申請期間は何年位が適切と考えますか。

税額	回答数
① 1～2年	2
② 3～4年	24
③ 5～6年	22
④ 10年以上	54
⑤ 無回答	3
計	105



## ◆ やまがた緑環境税に関するアンケート調査結果（公募団体）

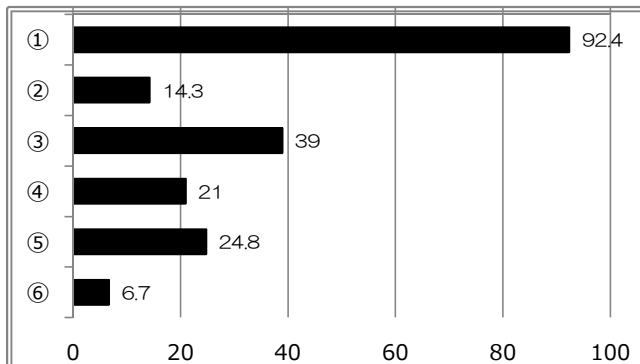
### <調査の概要>

- 1 対 象：平成27年度県民みんなで支える森・みどり環境公募事業実施団体
- 2 期 間：平成27年10月～11月
- 3 回 答：105団体

問8 貴団体が、継続的かつ実践的な森づくり活動を進めていく上で、どのような支援が必要ですか。

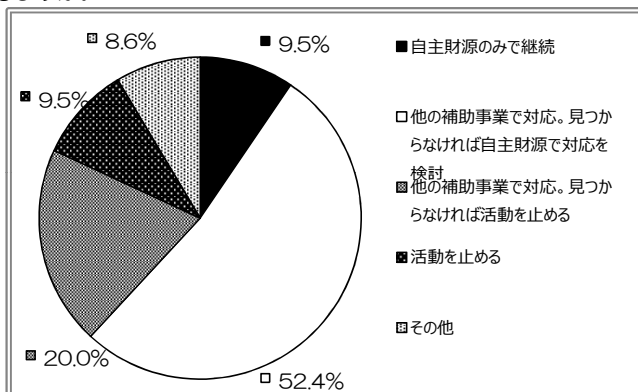
(単位:% 回答団体105団体に対する回答の割合)

必要な支援	回答数
① 活動に必要な経費	92.4
② 森づくりフィールド等情報の提供	14.3
③ 活動時の技術的支援	39
④ クワなどの資材の貸出	21
⑤ 団体指導者クラスの研修・育成	24.8
⑥ その他	6.7



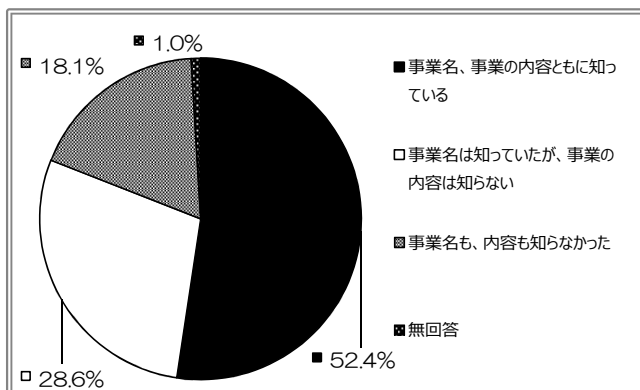
問9 公募事業が廃止となった場合、現在の活動についてどう対応しますか。

廃止後の活動	回答数
① 自主財源のみで継続	10
② 他の補助事業で対応。見つからなければ自主財源で対応を検討	55
③ 他の補助事業で対応。見つからなければ活動を止める	21
④ 活動を止める	10
⑤ その他	9
計	105



問10 「やまがた緑環境交付金事業」をご存じですか。

交付金事業の認知度	回答数
① 事業名、事業の内容とも知っている	55
② 事業名は知っていたが、事業の内容は知らない	30
③ 事業名も、内容も知らなかった	19
④ 無回答	1
計	105



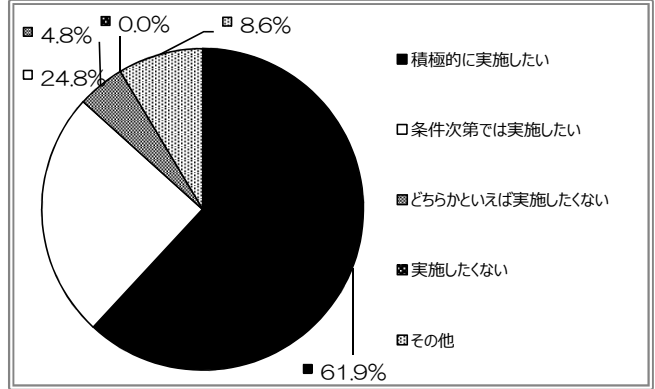
◆ やまがた緑環境税に関するアンケート調査結果（公募団体）

<調査の概要>

- 1 対 象：平成27年度県民みんなで支える森・みどり環境公募事業実施団体
- 2 期 間：平成27年10月～11月
- 3 回 答：105団体

問11 市町村と密接に連携しながら市町村内の森づくり活動を協働で実施していくことについて、どのようにお考えですか。

市町村との連携	回答数
① 積極的に実施したい	65
② 条件次第では実施したい	26
③ どちらかといえば実施したくない	5
④ 実施したくない	0
⑤ その他	9
計	105



※ 問4、問12～14は自由記述

## やまがた緑環境税評価・検証 森林所有者へのアンケート調査 要約版

### 1 アンケート調査の概要

#### (1) アンケート調査の概要及び回収率

本アンケートは、平成 27 年 8 月から 9 月にかけて郵送により実施した。アンケートの対象者は、平成 26 年度までにやまがた緑環境税事業により森林整備を実施した森林所有者 1,500 名、同事業で森林整備を実施した地区の代表者 71 名、同事業で森林整備を実施していない森林所有者 500 名の計 2,071 名とした。

回答率は、平成 22 年度に実施した前回よりも 8%低い 53%であった。対象者別では、同事業実施者が 49%、地区代表者が 69%、非事業実施者が 61%となった。

	発送数	回収数	回答率
平成 22 年度(事業実施者)	835	507	61%
平成 27 年度 合計	2,071	1,095	53%
うち事業実施者	1,500	741	49%
うち事業実施者(地区代表者)	71	49	69%
うち非事業実施者	500	305	61%

表－1 アンケート回収状況

### 2 回答者（森林所有者）について

#### (1) 回答者の性別

回答者の性別については、平成 22 年度と同様に男性の割合が高い。しかし、平成 22 年度に男性の割合が 92%に対し、今回の調査では 87%に留まった。アンケートの自由回答欄に寄せられた内容から考察すると森林所有者の死亡に伴い、配偶者に相続されたなど考えられる。

	男		女		無回答	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
平成 22 年度(事業実施者)	468	92%	31	6%	8	2%
平成 27 年度合計	958	87%	58	5%	84	8%
うち事業実施者	628	85%	50	7%	68	9%
うち事業実施者(地区代表者)	46	94%	0	0%	3	6%
うち非事業実施者	284	93%	8	3%	13	4%

表－2 回答者男女別比

(2) 回答者の年齢構成

回答者の年齢構成については、平成 22 年度と同様に 60 歳以上の森林所有者が全体の 7 割以上を占めている。森林所有者の高齢化がうかがえる。

	29 歳以下	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳～69 歳	70 歳以上	無回答
平成 22 年度(事業実施者)	0	2	15	104	167	218	1
平成 27 年度合計	2	6	16	105	437	514	15
うち事業実施者	1	3	13	75	284	354	11
うち事業実施者(地区代表者)	0	0	0	5	20	23	1
うち非事業実施者	1	3	3	25	133	137	3

表－3 年齢

2 事業評価について

(1) 事業を実施しての感想

やまがた緑環境税事業により森林整備を実施した所有者に対し、森林整備が行われたことに対する感想を質問したところ、「とても満足している」「満足している」と回答した割合は約 75%であり、概ね満足していると伺えた。平成 22 年度にも類似した質問を行っているが、「満足している」と回答した割合は 72%であった。

【問 4】県主導の山の手入れが行われたことについての感想をお聞かせください(1つ選択)

	1.とても満足している	2.満足している	3.どちらともいえない	4.やや不満	5.不満	6.わからない	無回答
回答数	178	374	81	57	14	23	14
割合(%)	24.0	50.5	10.9	7.7	1.9	3.1	1.9

表－4 県主導の山の手入れについての感想

また、満足した理由については、「山がきれいになった」と回答した割合が最も多く、次いで「森林境界が明確となった」「山に行く道が出来た」の順となっている。平成 22 年度にも類字した設問を行っているがその際は、「山がきれいになった」が最も多く、次いで「山に行く道が出来た」「森林境界が明確となった」の順となっていた。

【問4-1】問4で「1」・「2」と回答した方に伺います  
どの点に満足されましたか(2つまで選択可)

	1.山がきれいになった	2.森林境界が明確になった	3.山に行く道が出来た	4.その他
回答数	505	135	75	43
割合(%)	66.6	17.8	9.9	5.7

表－5 満足した点



さらに、不満を感じた理由については、「伐採木が山に放置された」が最も多く、次いで「もっと伐って欲しかった」「思った以上に木を伐られた」であった。

不満を感じたと回答した人は、森林整備のうち長期育成林整備で実施した人が最も多かった。

【問4-2】 問4で「4」・「5」と回答した方に伺います  
どの点に不満を感じられましたか(2つまで選択可)

	1.思った以上木を伐られた	2.もっと木を切っただけ	3.伐採木が山に放置された	4.その他
回答数	19	42	90	33
割合(%)	10.3	22.8	48.9	17.9

表-6 不満な点

### 3 やまがた緑環境税事業の今後の展望について

#### (1) 森林の現況について

全アンケート対象者に対し、住まいの近くの森林や所有森林の現況について質問した。

「近年、手入れされた山が増えたと思いますか」との設問に対し、「思わない」と回答した割合が54%で最も多かった。

また「近年、手入れされず荒れた山が増えたと思いますか」との設問に対し、「思う」と回答した割合が67%で最も多かった。

森林整備は進んでいるものの、森林整備が進んだ実感を持っていない現状がうかがえ、今後も森林整備を進めて行く必要がある。

近年、手入れされた山が増えたと思いますか(1つ選択)

	思う	思わない	わからない	無回答
事業実施者	251	341	134	15
事業実施者(地区代表者)	19	25	4	1
非事業実施者	42	226	36	1
回答数計	312	592	174	17
割合(%)	28%	54%	16%	2%

表-7 手入れがされた山が増えたと思うか

近年、手入れされず荒れた山が増えたと思いますか(1つ選択)

	思う	思わない	わからない	無回答
事業実施者	466	88	130	57
事業実施者(地区代表者)	34	8	2	5
非事業実施者	239	23	39	4
回答数計	739	119	171	66
割合(%)	67%	11%	16%	6%

表-8 荒れた山が増えたと思うか

さらに、非事業実施者に対し、ここ10年間の森林整備の実施状況と今後10年間の森林整備の予定について質問した。

ここ「10年間のうち手入れを行った」と回答した割合は約35%にとどまり、「行わなかった」と回答した割合は約65%にのぼった。また今後10年間の森林整備の予定については、「山の手入れをするつもりはない」と回答した割合が約29%であった。しかしその反面、「適切な助成制度があればしたい」と回答した割合が約49%となり、個人では難しいものの何らかの支援があれば実施する可能性もうかがえた。

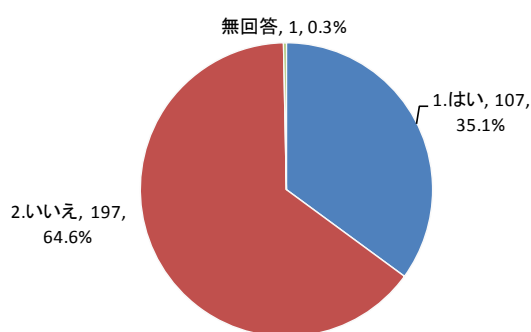


図-1 ここ10年間の手入れ状況

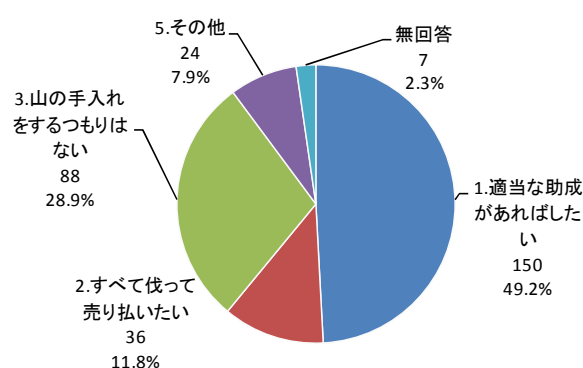


図-2 今後10年間の手入れ予定

## (2) やまがた緑環境税事業の継続について

全アンケート対象者に対し、事業の継続について質問を行った。継続に対しては、「ぜひ継続すべき」「内容を見直し継続すべき」と回答した割合は84%となり大多数が継続すべきと考えていた。

今後も、やまがた緑環境税を活用した県主導での山の手入れを継続すべきと思いますか  
(1つ選択)

	ぜひ継続すべき	内容を見直し継続すべき	継続する必要はない	わからない	無回答
事業実施者	515	122	7	71	26
事業実施者(地区代表者)	37	11	0	0	1
非事業実施者	182	55	7	58	3
回答数計	734	188	14	129	30
割合(%)	67%	17%	1%	12%	3%

表9 緑環境税を活用した山の手入れを継続すべきか

また、やまがた緑環境税事業が継続された場合に望むことは、「森林整備の拡充」が最も多く、次いで「木材利用」「境界明確化」となった。

今後も、やまがた緑環境税の制度が継続されることになった場合、どのようなことを望みますか  
(3つまで選択可)

	手入れ の拡充	木材 利用	境界明 確化	保育 管理	景観 保全	再生林	自力へ の支援	その他	無回答
うち事業実施者	409	381	249	201	238	125	120	13	0
うち事業実施者(地区代表者)	32	25	11	12	5	4	2	1	0
うち非事業実施者	153	153	102	79	103	53	73	14	2
回答数計	594	559	362	292	346	182	195	28	2
割合(%)	23%	22%	14%	11%	14%	7%	8%	1%	0%

表-10 やまがた緑環境税事業が継続された場合に望むこと

#### 4 考 察

##### (1) 森林所有者の傾向

森林所有者は、高齢化が進み、アンケート調査対象者の7割以上が60歳以上であった。また、森林所有者の死亡に伴う代替わりも徐々に見受けられた。現在の森林所有者(高齢者)と代替わり後の森林所有者では下記のような違いが見受けられた。

現在の森林所有者(高齢者)と代替わり後の森林所有者で理由は異なるが、①自分では森林整備ができない方が多く、②森林整備を行うには森林組合等の林業事業体に依頼する必要がある状況であった。また、今後は代替わり進むことが予想され、代替わりにより、①境界不明、②皆伐後の再生林率の低下などの問題が懸念される。

	キーワード	詳 細
現 在	1 知識が豊富	1 若い頃に森林整備をしていたため、森林整備の必要性や方法について知識がある
	3 山への愛着あり	2 自分で木を植えた人も多く愛着が強い
	4 時間あり	3 退職した方が多く時間には余裕がある
	5 整備出来ない	4 体力の低下や体調不良のため、森林整備が出来ない方が多い
代替わり後	1 知識がない	1 若い頃から山に入る機会が少なく、森林整備の必要性や方法について知識がない
	2 山への愛着希薄	2 山へ行ったことがない方も多い
	3 時間がない	3 会社勤めの方が多く、時間に余裕がない
	4 整備が出来ない	4 技術的な理由でできない

表 - 11 現在の森林所有者(高齢者)と代替わり後の森林所有者の違い

##### (2) 事業実施しての感想

事業実施しての感想については、7割以上の方に満足していただいた。森林整備の実施により、山がきれいになったほか、①森林境界が明確になった、②山に行く道ができたなど、次回の森林整備に繋がる効果も見受けられた。

また、不満に感じたという回答された方の意見として、①伐採木の放置と②「思った

より伐られた」や「もっと伐って欲しかった」など技術的な指摘であった。

	キーワード
満足	1 山がきれいになって 2 森林境界が明確になった 3 山に行く道ができた
不満	1 伐採木の放置 2 思った以上に伐られた・もっと伐って欲しかった

(3) やまがた緑環境税の今後の展望について

環境税での支援については、本アンケート調査では、①手入れの拡充、②木材利用、③境界明確化・景観整備に対する要望が多かったが、環境税の趣旨やその他アンケート調査等を踏まえ、検討したい。

# 「やまがた緑環境税」市町村担当課長会議意見要旨

## 1 開催月日及び場所

- (1) 平成 27 年 11 月 18 日 (水) 14:30~16:00 置賜総合支庁講堂
- (2) 平成 27 年 11 月 19 日 (木) 14:30~16:00 村山総合支庁講堂
- (3) 平成 27 年 11 月 25 日 (水) 14:30~16:00 庄内総合支庁講堂
- (4) 平成 27 年 11 月 26 日 (木) 14:30~16:00 最上総合支庁講堂

## 2 主な意見(要旨)

### (1) 税全般

#### ○税額

- ・概ね3年とあるが、再来年4月から消費税が10%となることや、納税者が減少することから税事業を当初想定どおり実施することは厳しいと考える。税徴収額の値上げも考慮して欲しい。

#### ○継続

- ・町の森林整備育成協議会でも、緑環境税事業は必ずやって欲しいという意見がでた。
- ・緑環境税導入の背景、目的、課題というのは今現在も変わっていないと思う。緑環境税を活用した事業というのは定着化してきているので、今の段階でこれを縮小するのは難しいと考える。

#### ○認知度

- ・認知度向上のため、市としては活動に参加している人へ財源周知等など協力していきたい。
- ・認知度が低いことは町としても反省が必要。関係者には喜ばれているが、その他の方にも広めていきたい。
- ・アンケートによる認知度が、あまりよくない。他県とも比較すべき。理解していただき、快く負担していただくことが良いと思う。
- ・税のことに對して町民の理解が低い。町でも機会をみて普及啓発を行っていきたい。

#### ○制度設計

- ・緑環境税に関わる事業が増えている一方で職員が対応することが難しくなっている。この10年でNPO団体も育ってきているので、NPO主体となるような方向付けをお願いしたい。

#### ○その他

- ・やまがた緑環境税を活用し、荒廃森林の整備や県民の森づくり参加を推進していることは評価でき、更なる普及啓発を期待したい。

### (2) ハード事業

#### ●ハード全般

#### ○継続・拡充

- ・予算の関係で要望のある箇所も整備出来ていない状況。事業を継続・拡大して欲しい。

#### ○制度設計

- ・道路際で目立つが地目が畑のため、整備ができない箇所が結構ある。地目変更など、環境税を使ってできないものか。

#### ○境界明確化

- ・境界明確化作業は町の職員だけでは進まないため、やる気のある財産区やNPO等に委託し実施できるようにして欲しい。
- ・国調や登記は無理でも、境界の明確化だけは急ぎ進めていきたい。

#### ○平等性

- ・不公平感という話があるが、今でも根底にある課題だと考えられる。
- ・一般県民にとって、荒廃の進んでいるところの手入れをするというのは理解しやすいと思うが、林業を行っている方にとっては不公平だと感じる。県民に理解しやすい理由づけを。

## ●荒廃森林緊急整備事業

### ○継続

- ・ハード事業は間伐の実施等など、森林整備にはかかせないものとなっている。今後も継続していただきたい。
- ・やまがた緑環境税の一番の目的は荒廃した人工林の整備だと考えている。続けて欲しい。
- ・まだまだ荒廃森林があふれている。災害防止という観点からもぜひ今後も緑環境税を継続し、荒廃森林整備を進めて欲しい。
- ・この事業を活用し、整備した人工林、里山林の他にもまだ、公益的機能の低下が危惧される林分が多数を占めているのが現状にあるため、今後も継続して事業を活用していきたいです。

### ○制度設計

- ・整備対象地を幹線道路沿いだけでなく、林道沿いも可として欲しい。・内陸部における松くい虫被害防除については、国庫補助事業の森林病虫害等防除事業の対象外であり、補填的な事業として松くい虫防除事業を事業化することはできないでしょうか。
- ・今後、整備したスギ人工林は利用期に突入するため、制度上整備した森林は、20年は皆伐を禁止しているため、この制度の見直しを検討してほしいです。
- ・伐倒木が豪雨災害の被害拡大を招いた経験もあるため、切り捨てではなく搬出にしてほしい。
- ・里山林整備事業は一般民有林が対象となっているが、市有林についても対象事業地としてほしい。
- ・道路用地で雑木が生えている場合、通行に支障ない限り管理者は対応しないが、景観上林地だけの整備では効果の見えない土地がよくある。一体的に整備できるようにしてほしい。
- ・松くい虫被害対策として補助事業の枠の拡大が難しく対応が遅れてしまう。市町村が緑環境税を活用して対応する枠を拡大してほしい。

### ○長期育成林

- ・当町においては豪雨災害で切捨て間伐による伐倒木で川が閉塞し、豪雨災害の被害を拡大した。出せる場所は搬出間伐にして欲しい。搬出した間伐材は「木の駅」等に出して有効に活用したいと考えている。

### ○里山林

- ・里山林整備は地元の方からたくさん要望いただいている状態。今後も継続いただきたい。

### ○災害

- ・山地災害防止にも力を入れていただきたい。

### ○成果

- ・この事業により幹線道路沿いの荒廃森林について面的整備が進められることは有意義である。
- ・治山事業の対象とならない荒廃森林の整備に有効と考える。

## ●森林資源再生（再造林）

### ○継続・拡充

- ・資源の循環利用には、再造林を行っていく必要があることは言うまでもないことであり、再造林の促進は緑環境税の趣旨によく合致すると考えている。
- ・見直し後も継続、または拡充の検討をお願いしたい。
- ・荒廃森林を作らないためにも再造林の補助率のさらなる嵩上げと伐採跡地のチェック機能の強化が必要と考えます。
- ・森林経営計画区域以外にも再造林に対しての補助金を交付してほしい。

### ○継続

- ・森林資源再生事業については、伐採後の再造林を行う仕組みをつくり、森林所有者が恩恵を受けられるよう、さらなる事業の推進を期待したい。

### ○制度設計

- ・自治会や財産区等からは、再造林後の保育等にも費用がかかり、主伐時に保育分にまわせないと意見がある。100%補助で再造林ができればよいと思う。森林経営計画外でも再造林のための手当て（苗木代の補助など）をお願いしたい。

### ○方向性

- ・大災害が発生してからでは手遅れになるので、明確に再造林支援を打ち出し資源の循環に務めるべきある。

## ●森林資源循環利用（搬出支援）

### ○制度設計

- ・森林資源の循環について、利用目的が集成材やバイオ材に限定されているが、本市にはパルプ材も多くあるので、一緒に対応してもらえないか。

## ●広葉樹林健全化（ナラ枯れ）

### ○継続・拡充

- ・ナラ枯れの被害木のみではなく、薪やきのこのほだ木として健全木を伐採し、広葉樹林の若返りを図ることができるよう対象を拡大してほしい。

### ○制度設計

- ・年度途中に、緊急的な対応が必要なナラ枯れ木が発見されることがある。人身事故等を未然に防止するためにも、柔軟な対応ができるようお願いしたい。

## ●その他

### ○自伐林業

- ・木質バイオマス発電が出来るということもあり、自分で出したいという方も出てくると考えられる。自伐林業に関するチェーンソーの研修なども検討して欲しい。

### ○木材利活用

- ・公共建築物の地域産材利用基本方針なども出来ているのだが、高くて使えない現状。流通の仕組み等への支援を要望する。

### ○維持管理

- ・自然環境の保全のためには、林道の管理が必要である。税を維持管理に活用できるよう見直して欲しい。

### ○制度設計

- ・松くい虫防除対策は、国の補助があるが、さらに上乗せしていただけないか。

## （3）ソフト事業

## ●公募事業

### ○継続・拡充

- ・地域住民からなる任意団体が森林整備等を行う際に活用できる事業として、公募事業の要望が多い。
- ・採択件数を多くするため、予算配分の増加をお願いしたい。

### ○継続

- ・地域活動も希薄になりつつある現在、各団体の取組みは地域おこし活動の一端を担っていることは間違いのない事実であり、今後も事業存続をお願いしたい。

### ○成果

- ・公募事業等により、県民の森づくり活動に関する関心を高めることができたのではないか。
- ・緑と触れ合う機会を増やし、森林資源の有効利用を計る上で非常に有効に機能している。
- ・住民が企画立案し、事業に参加することでボランティア意識や郷土愛が深まってきている。
- ・絆の森活動の実施により、地域間交流、世代間交流を促進することができたと考えている。

### ○制度設計

- ・公募事業は額が小さく、反面交付金事業はたくさんもらっている。やりかたを検討すべき。

### ○手続きの簡素化

- ・公募事業の事務を簡素化して欲しい。

## ●交付金事業

### ○継続・拡充

- ・今後も事業の継続および拡大をお願いしたい。
- ・木製の東屋、ステージ等を整備したい。材料（木材）のみではなく、ボランティアでは対応できない作業の人件費を補助対象経費として頂きたい。補助対象経費を拡充して欲しい。
- ・小学生の森林体験学習や講師を依頼している村民との世代間交流、また間伐材を使用した木材製品の普及に役立っている。今後も実施していきたいので、予算の確保をお願いしたい。
- ・要望としては、対象に森林環境整備以外の緑化活動（公園の芝生整備等）も認めてほしい。

## ○継続

- ・緑環境税事業の継続そして交付金事業の継続を希望します。
- ・ソフト事業は市単独での予算化は厳しい。一般の方からの要望もあるので、継続を要望する。
- ・交付金はコミュニティ活動の一助として実施している。継続的な制度運営を期待したい。
- ・交付金については、希少野生生物生息地の保全や県産材利用促進事業で有効に活用させていただいておりますので、本事業の継続をお願いします。
- ・市町村独自の取組みの貴重な財源であると考え。特に市内中学生を対象とした森林学習会は森林の保全活動を啓発する良い機会となっており、今後も継続していきたいと考えている。
- ・長年培われてきた森林資源の活用方法や森林整備の重要性を、将来を担う子供たちにしっかりと受け継ぐための森林環境学習を展開できたこと大変感謝をしております。
- ・町内各小学校の森林環境教育事業はもとより、希少生物の保全活用にも有効に活用させていただいている。

## ○拡充

- ・交付金事業で日当や食糧費、林道の下刈、除伐等も認めて欲しい。

## ○成果

- ・モデル的に小学校周辺の里山で森林整備をしている。地域の方々の関心度も高い。
- ・交付金事業は小中の教育、地域材の利活用などに有効に活用している。
- ・交付金を活用した事業により、地域の緑化、森林資源とのふれあい、地域材の利活用など、多様な面で地域や住民に波及効果が及んできている。

## ○制度設計

- ・基本配分枠を広げ、市町村が多くの事業を実施できるようにして頂きたい。
- ・交付金事業は事務的に煩雑な部分がある。委託や補助金など、一括して団体等に支払いができれば楽になると思う。

## ●絆の森

### ○制度設計

- ・企業の育林活動における貯金通帳については、リピーターの方もいるので、約束事なので、突然やめるといふことや周知不徹底が無いようにして欲しい

## ●病虫獣害

### ○現状

- ・住宅地に近い山林、サギや有害鳥獣のすみかになっている山もある。クマ・サルの出没もここ10年で多くなっている。

## ●イベント

### ○内容の検討

- ・イベントでの式典などが重い。もっと気軽に楽しく山に入っていける、参加してくれる人がいいなと思ってくれるイベントにする工夫が必要。
- ・管内持ち回りの「森の感謝祭」は、各市町村の負担になっていると思う。特に「みどりの少年団」活動は各市町村及び各学校の取組みや引率教職員の勤務取扱いも課題となっています。今後も、県主導により関係教育団体との連絡調整に配慮してほしい。

## ○統合

- ・普及啓発の手法としての森の感謝祭に関して、県と地域の森の感謝祭を統合するなど、開催イベントの見直しをしてはどうか。

## ○縮小

- ・イベントの効果はあると思うが、イベントにかかる費用を削減し、緊急性の高い他事業へ配分すべきである。

## ○現状維持

- ・イベントの数が増えると参加するのも大変になるので、現状程度の回数を維持してほしい。



# 森づくり意見交換会意見要旨

## 1 開催月日及び場所

- (1) 平成 27 年 11 月 18 日 (水) 18:00~19:30 置賜総合支庁講堂 (参加者 59 名)
- (2) 平成 27 年 11 月 19 日 (木) 18:00~19:30 村山総合支庁講堂 (参加者 58 名)
- (3) 平成 27 年 11 月 25 日 (水) 18:00~19:30 庄内総合支庁講堂 (参加者 43 名)
- (4) 平成 27 年 11 月 26 日 (木) 18:00~19:30 最上総合支庁講堂 (参加者 71 名)

## 2 主な意見 (要旨)

### (1) 税全般

#### ○税額

- ・税額を県民ひとり 2,000 円にすれば、認知度があがる。短期間で徴収し集中的に森林整備を進めてはどうか。
- ・半分の方が知らないということは、税が安すぎるからではないか。
- ・森林の状況はかなり深刻になってきている。事業計画を示して、県民にもっと負担してほしいということを訴えるべきだ。

#### ○評価

- ・森林行政全体の中で、緑環境税がどの程度の役割を果たしているのか。緑環境税以外の事業量の推移は、どういった推移の見通しをもっているのか。
- ・人口が減少してきて里山が荒れてきている。クマ、イノシシ、シカ、サルなども出てきている。公益性から考えれば、国・県・個人・企業すべてで考えていかなければならないのではないか。

#### ○説明

- ・荒廃森林をなくすために、どれだけの事業量が確保されてきたのか。緑環境税と他の財源でどれだけの事業量が確保されてきたのか。現在の財政状況では荒廃森林が増える一方で減らない、という現実を県民に説明すべき。

### (2) ハード事業

#### ●森林整備

#### ○採択基準

- ・以前松くい虫の被害木を処理したところが、松くい虫被害でまた赤くなっている。もう一度税事業で処理できるような仕組みを作っていただきたい。
- ・里山林整備の森林景観整備事業については 1 年で終わり。次の年になるとうっそうとした山に戻ってしまう。継続して下刈等を行えるようにしてほしい。

#### ○方向性

- ・原点に立ち返った森林整備を重点的に進めていただきたい。地域で森林整備を待っている方もいる。そこに自己資金を投入する余裕がない人がかなりいる。はじめに環境税で整備する。その後自立した林業を考えるということではどうか。使う林業を進めたいとは皆思っている。
- ・伐り捨て間伐はやめて、利用する方向で進めてほしい。

#### ○循環

- ・新庄市に集成材工場が、庄内では木質バイオマス発電施設ができると聞いている。今一番タイムリーな時期。生産して植えるという、緑の循環を進めてもらいたい。
- ・周辺森林が荒廃しているのは利活用されていないから。どうやって利活用するのかを先に考えなければいけない。収入になるものを見つけ、循環につなげる。

#### ○路網

- ・里山も含めた作業路を整備してほしい。
- ・作業道、林業専用道の整備が遅れている。対策を考えていただきたい。

#### ○可視化

- ・現在のように点々と整備をしても荒廃の進むスピードの方が速い。環境税も集約化して目に見える形で整備して行くべき。

- ・里山、特に人目につく道路沿いの森林整備をお願いしたい。

#### ○病虫獣害

- ・バッファゾーン整備はまだ進んでいないと感じる。市町村をまたぎ、連携した事業展開ができるのでは。

#### ○再造林

- ・森林は循環しないとうまくないので、再造林は必要。ぜひお願いしたい。
- ・継続して欲しい。再造林とともに、10年間の下刈も面倒みて欲しい。
- ・再造林に力を入れて欲しい。コスト軽減のため、コンテナ苗など普及啓発するような事業を考えて欲しい。

#### ○木材の利活用

- ・木材を使うことに力をいれるべきではないか。公共施設など県民みんなが使う施設への木製品の導入なら、趣旨にあっているのではないか。
- ・山を利用した発電が始まっている。CD材を出すだけでは収入はあがらない。経費倒れる部分を環境税で支えてほしい。

#### ●人材育成

##### ○自伐林業

- ・自伐林家など個人の作業者が増えている。個人に対する安全具の購入や講習会に参加する経費などを検討して欲しい。
- ・林業が、税金をかけずとも自立した仕事となるように、若い人だけでなく、地元の方や、都会から脱サラして来た方の人材育成・研修を考えて欲しい。仕事や仲間が増えるともっと地域に人が入ってきて地域が活性化する。

##### ○育成

- ・最優先にやるべきことは人材育成である。今の事業体には育成できる人がいない。その点も支援してほしい。生き生きと働いてもらえる環境づくりを。

##### ○その他

- ・所有者が、境が分からない、森林に興味がないという方がいる。必要としなくなった山林は、山林を必要としている人に貸す、譲るなりしたらよいのでは。
- ・森林整備を行ったあとの、立派な看板がもったいない。普及は必要だと考えるが、別のやり方があるんじゃないかと思う。

### (3) ソフト事業

#### ●公募事業

##### ○事業延長

- ・ソフト事業は大幅カットされるという噂を聞いた。ぜひソフト事業を残してもらいたい。
- ・今後ともぜひ、みどり環境税の公募事業を進めていていただきたい。
- ・森づくり活動をしているが、フィールドの木道など悪くなってくると必ず変えなければならぬので、このまま継続してもらいたいと考えている。
- ・森に関心を持つ方が増えてきていると感じるので、このまま事業を継続してほしい。

##### ○採択項目追加要望

- ・林道、作業道の整備（刈払い等）も対象事業にして欲しい。
- ・公募事業について、県外で行っている活動についても助成を行ってほしい。
- ・実績報告や活動報告会など事務的な労力が大きい。人件費はみれないのか。
- ・公募事業で飲食を認めて欲しい。軍手も駄目はあまりにもだと感じる。実際に活動している人のことを考えて、フレキシブルな対応を願う。

#### ●病虫獣害

##### ○野生動物駆除

- ・野生動物との共生とあるが、林業にとっては有害。ある程度は駆除していただかないと困る。最近、クマの皮剥ぎ被害が甚大。みどり環境税を活用して駆除をお願いしたい。

## ○松食い虫

- ・松くい虫被害が深刻である。平成 19 年から比べると公募の助成額はかなり減少している。そのあたり検討してほしい。

## ●環境教育

### ○副読本

- ・単発の取組みや副読本だけでなく、継続できる環境学習のシステムを作って欲しい。
- ・副読本は内容が変わっていない。新しい事業ができれば、追加して学校に配布してもらいたい。

### ○対象年齢

- ・森林での教育を中学や高校、20 歳前後の青年に対してもやって欲しい。

### ○連携

- ・学校には、年間カリキュラムとして森林のために何時間というのがあるのかないのか？あれば、自然環境に関係している団体と交流しながら森とふれあう時間になればいいなあと思っている。なければ、学校や市町村に地元の団体と連携して実施するような時間をとっていただきたい。

## ●普及啓発

### ○情報発信

- ・知っている人が少ない。県民のあゆみ等で整備した森林をPRして欲しい。
- ・森づくり活動について、各団体がどこで何をやっているか県内一円でまとめて欲しい。
- ・情報発信すれば、もっと県民も親しみが湧くのではないか。

### ○その他

- ・県民の森に行きたいときに行けるような交通手段の整備はできないか。
- ・県民の森の施設整備をして欲しい（木工クラフト施設へのトイレ設置。湿性植物園の補修、環境整備、障害者が楽しめるような施設整備）。
- ・街中の人でも気軽に森に親しめる環境づくりをお願いしたい。
- ・森に親しむというハードルを下げるためには緑環境税が柱になってくるのではないか。